

# ESD ユネスコ世界会議交流セミナー報告書

団体名:ピースボート地球大学

## 【ESD ユネスコ世界会議の成果】

ピースボートは地球一周をはじめ、国際交流の船旅をコーディネートする NGO です。ピースボート地球大学は将来、NGO スタッフや国際機関、地域活動などで活躍する「平和の創り手」を担う人材育成プログラムです。セミナーでは 2014 年夏期ピースボート地球大学のプログラムの受講生 7 名が、寄港地でのエクスポージャー（現場実習）や洋上でのゼミ・講座で得た経験を ESD の実践例として紹介しました。

エルサルバドルでは環境 NGO「セスタ（CESTA）」が運営するエコセンターで 植林や生活用水のための浄水フィルター作りなどを行い、循環が型の持続可能な暮らしを体験しました。

また、スリランカでは 26 年間にもおよぶ内戦を経験した各民族グループの方たちから証言を聞くとともに、地元 NGO による紛争後の持続可能な社会づくりから、和解の大切さを学びました。

こうした NGO や市民社会の取り組みから、持続可能な社会を築くためには、地球市民として一人ひとりが主体的に行動することが大切だということを学びました。また、ESD が環境教育だけではなく、自然災害、貧困、人権、経済問題などより広い分野と関わっていることや、直接現地で学び体験できる参加型教育プログラムの重要性について発表しました。最後に、乗船前と乗船後で自分がどう変わったのか体験談を語りました。



エコセンターで植林を手伝う受講生たち

## 【体験談】

宮原奈々子さん 28 歳

乗船前は貧困、紛争、環境問題は遠い国の話だと思っていた。また、募金や節電など一人ひとりの努力が本当に意味があるものなのか疑問だった。しかし、プログラムを通して、一人ひとりの努力が積み重なれば地球を良くすることもできると考えられるようになった。



紛争後の持続可能な社会づくりについて発表する受講生たち

樋田拓也さん 21 歳

大量生産・大量消費、多国籍企業やメディアなど、自分達の暮らしに関わる一つひとつが、持続可能な社会とつながっていることを学んだ。今後はこれらの問題を多くの人に伝えられるようになりたい。

鈴木恵子さん 34 歳

なかなか変わらない社会の現状に対して、「しょうがない」、「しかたない」と思っていたことが、プログラムを終えて、今の現状をそのまま受け入れるのではなく、自分自身が行動して変えていくことが重要だと考えられるようになった。



ESD ユネスコ世界会議で発表を終えた受講生たち

## 【今後の展望】

- ・ 2015 年春期のショートクルーズにて、ピースボート地球大学オープンカレッジを開催
- ・ 2015 年夏期に「貧困をなくし、持続可能な世界をつくる」をテーマにプログラムを実施
- ・ 2015 年夏期、国内外の学生による英語でのディスカッションや現場実習を兼ね備えた、グローバル人材育成プログラムを実施

ピースボート地球大学の詳細はこちら

<http://www.peaceboat.org/projects/univ/>